

図 2※ 口永良部島 火山性地震・微動活動経過図(1992 年 1 月 1 日～2007 年 7 月 31 日)  
 ・ 2005 年 1 月以降、火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いています。  
 ・ 火山性微動は 2003 年 2 月から時々観測され、2006 年 10 月以降、やや多い状態で推移しています。

\*1982 年 1 月 1 日～1999 年 9 月 12 日及び 2005 年 12 月 15～28 日までは京都大学のデータを使用しました。  
 \*2002 年 12 月 22 日～2003 年 1 月 11 日まで地震計 1 の機器障害のため欠測しました。また、2005 年 7 月 9 日～9 月 18 日、2005 年 11 月 5 日～12 月 14 日までは地震計 1 の機器障害のため、地震計 3 で回数を計数しました。

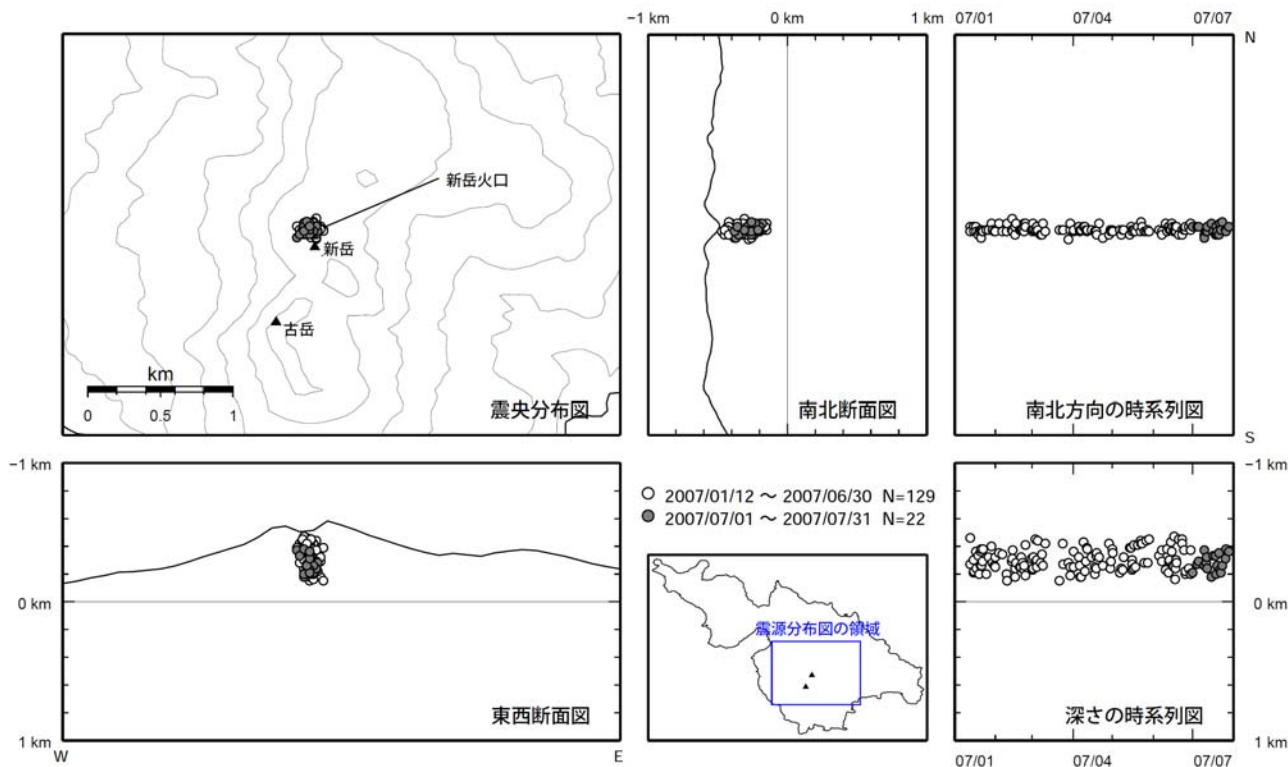


図 3※ 口永良部島 震源分布図(2007 年 1 月 12 日～7 月 31 日)

火山性地震の震源は、新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。

\* 1 月 12 日から京都大学のデータも用いて震源を求めています。

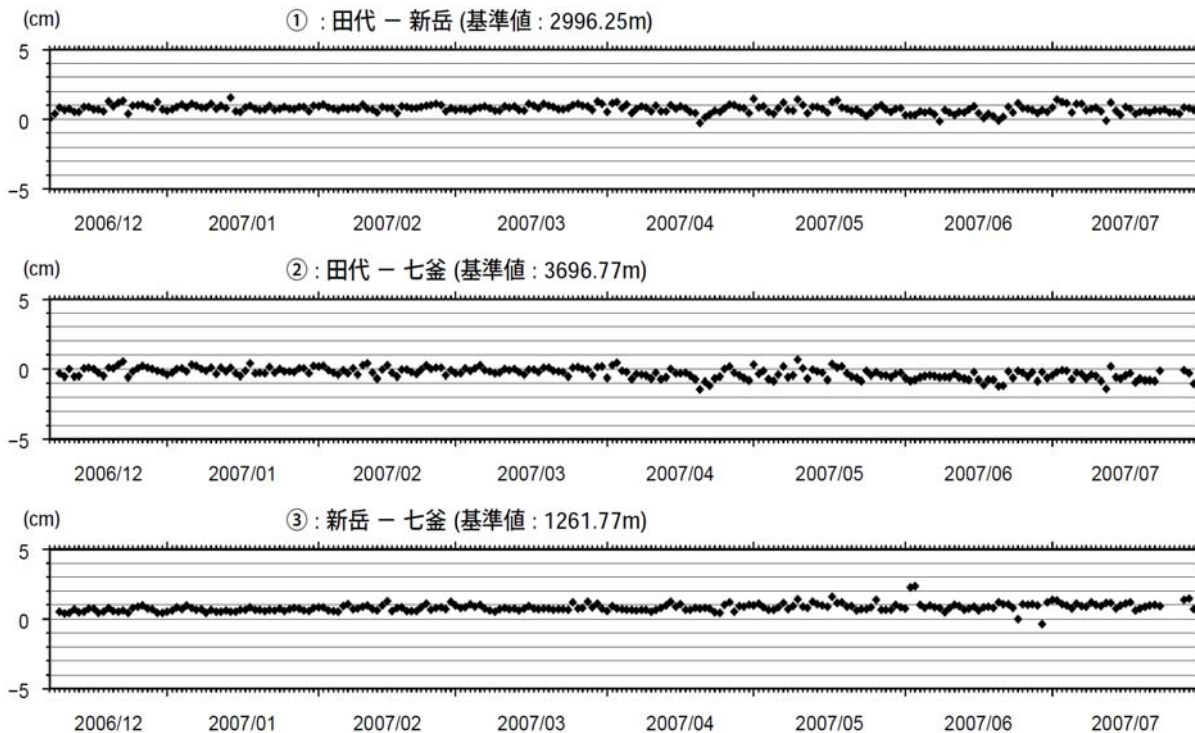


図 4 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化(2006 年 12 月 8 日～2007 年 7 月 31 日)

火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

この基線は図 1 の①～③に対応しています。